

稲作情報 (Vol.5)

令和6年7月4日
 石巻地方米づくり推進本部
 宮城県石巻農業改良普及センター
 TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/>

6月下旬の気象経過

6月第5半旬は気温が高く、日照時間は少なめでした。6月第6半旬の気温は平年よりもやや高く、多照となりました。6月23日の梅雨入り後は降水がありませんでしたが、6月30日に8.5mmの降水がありました。

水稻の生育状況

＜生育は順調、草丈は長く、茎数は平年並み、葉数は多い。生育の進んでいるほ場では、**幼穂形成始期に達しています**＞

移植栽培

- 草丈は、52.6～68.1cmで平年比111～113%で平年より長い傾向です。
- 茎数は、360～612本/m²で、ひとめぼれでは広渕ほ場は茎数の増加が止まり、矢本ほ場は平年比96%と、平年よりわずかに少なくなりました。ササニシキでは、桃生ほ場は田植え時期が遅かったこともあり平年比90%と少なく、稲井ほ場では平年比115%と平年を上回っています。つきあかりは360本/m²で目標の茎数が確保されています。
- 葉数は、10.2～11.2枚で、矢本ひとめぼれでは平年並みですが、ササニシキの2ほ場では平年よりも概ね1枚多くなっています。
- 葉色は、田植が平年よりも遅かった桃生ササニシキでは平年より濃く、その他のほ場は平年よりやや淡い～平年並みとなっています。

表1 生育調査ほ等の調査結果(7月1日現在)

品種名	地区名	7月1日				備考
		草丈(cm) (平年比)	茎数(本/m ²) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	
ひとめぼれ	石巻市広渕	55.5	459	11.2	38.6	新規
ひとめぼれ	東松島市矢本	61.0 (111%)	612 (96%)	10.2 (-0.1)	41.7 (-0.1)	
ササニシキ	石巻市桃生	54.1 (113%)	576 (90%)	10.6 (+1.0)	42.4 (+3.9)	
ササニシキ	石巻市稲井	52.6 (112%)	602 (115%)	10.6 (+1.1)	38.5 (-1.6)	
つきあかり	石巻市広渕	68.1	360	11.1	47.3	新規

品種名	地区名	7月1日				備考
		草丈(cm) (平年比)	茎数(本/m ²) (平年比)	葉数(枚) (平年差)	葉色(SPAD) (平年差)	
乾直ササニシキ	石巻市河南	61.5 (136%)	740 (125%)	10.6 (+1.8)	36.4 (-0.7)	
乾直ひとめぼれ	石巻市桃生	48.0	444	10.4	39.8	新規

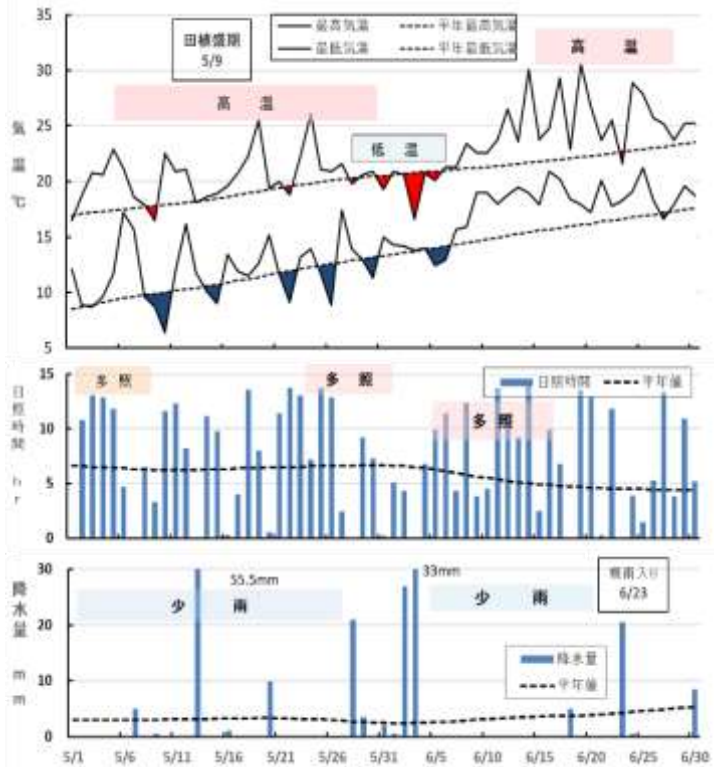


図1 田植後の気象経過(アメダス石巻)

直播栽培

- 河南ササニシキは、草丈・茎数・葉数とも平年を上回っています。葉色は平年並みとなっています。桃生ひとめぼれでは草丈48cmで他のほ場よりもやや短めですが、茎数は444本/m²と、ほぼ目標の茎数に達し、葉色も目標値となっています。

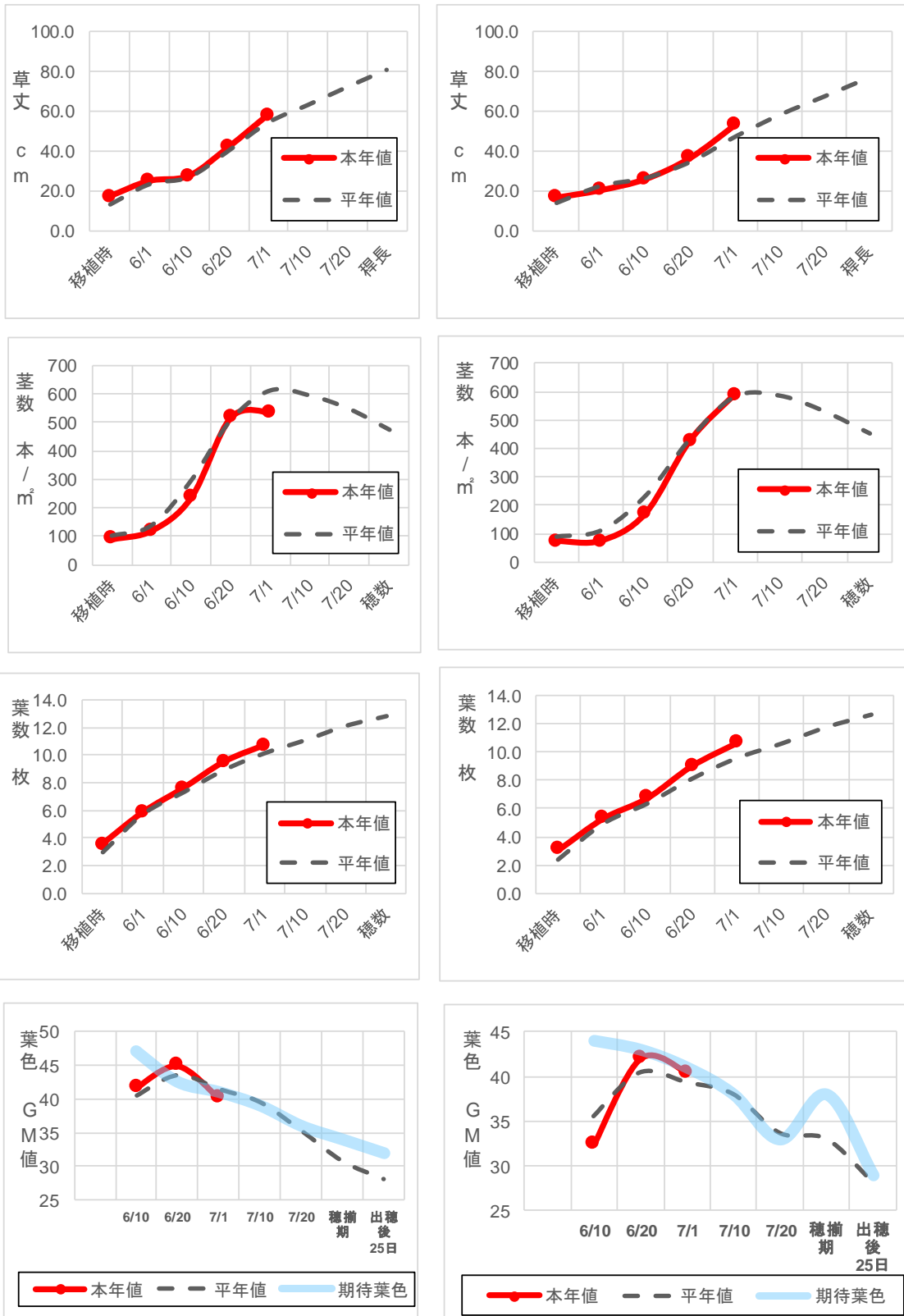


図2 ひとめぼれの生育経過（2ほ場平均）

図3 ササニシキの生育経過（2ほ場平均）

幼穂長調査及び生育ステージ予測

昨年同様に、7月末に出穂期に達する見込み

7月1日の幼穂長調査では、移植栽培では5月17日植の桃生ササニシキを除いて、すべてのほ場で幼穂が確認されています(0.1mm~1mm)。早生品種のつきあかりは、7月3日頃に幼穂形成始期に達すると推察されます。乾田直播の河南ササニシキでは、幼穂長は平均1.2mmとなっており、幼穂形成始期に達しています。

生育予測モデルによる生育ステージの予測では、石巻管内の田植最盛期である5月9日植えでは、幼穂形成期は7月3日、**出穂期は7月29日で平年(8月3日)より5日早いと予想されます。**

表2 生育予測モデルによる出穂期予測

	田植始期 (5%) 5/3	田植盛期 (50%) 5/9	田植終期 (95%) 5/22
幼穂形成期	6月29日	7月3日	7月12日
減数分裂期	7月11日	7月14日	7月23日
出穂期	出穂始期 (5%) 7月26日	出穂盛期 (50%) 7月29日	穂揃期 (95%) 8月7日
平年差	4日早い	5日早い	4日早い

気温データは6/30まではR6年、7/1以降は前5カ年平均値
7/3~7/15は2週間確率予測(50%)を利用



写真1 広淵ひとめぼれ



写真2 矢本ひとめぼれ



写真3 乾直ササニシキ



写真4 乾直ひとめぼれ



写真5 つきあかり



写真6 桃生ササニシキ



写真7 稲井ササニシキ

今後の管理

1 水管理

- ・幼穂形成始期(出穂25日前)以降は吸水量が多くなるので中干しを終了しましょう。
- ・中干し後に急に湛水状態にすると、土壌が強還元状態になって根腐れを起こすことがあるので、中干し直後のかん水は走り水程度に行い、その後は入水と自然落水を繰り返す間断かん水が基本です。用水不足の場合は飽水管理(足跡の水がなくなったらごく浅めに入水する。表土が十分湿る程度)を行ないましょう。飽水管理は、根の健全化が図られ、また、耐倒伏性が増加します。
- ・低温(日平均気温20℃以下又は最低気温17℃以下)が予想されるときは、幼穂を保温するために深水管理としましょう。

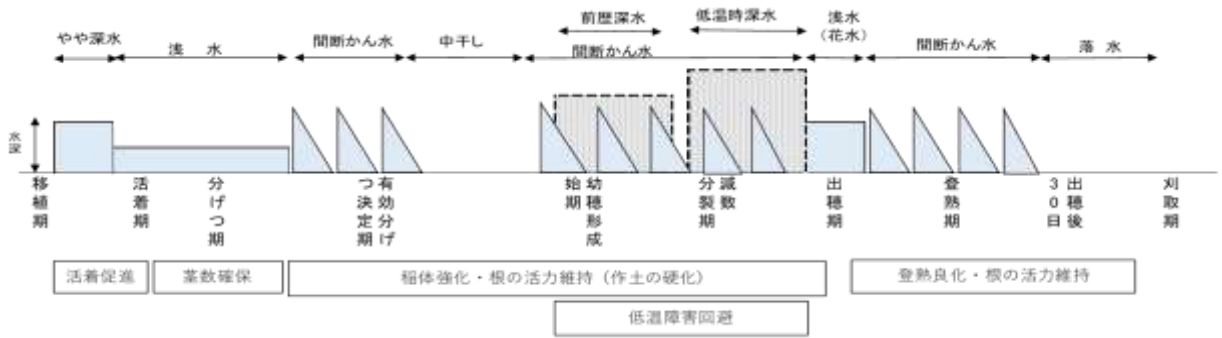


図4 標準的な水田水管理体系

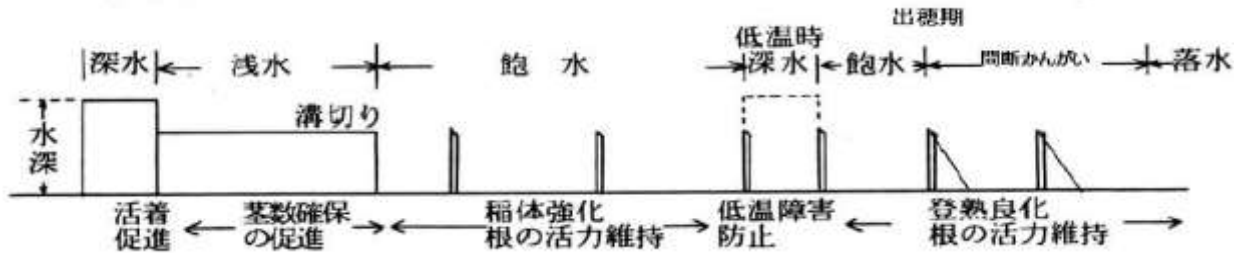


図5 飽水管理体系

2 追肥

- 基肥に穂肥の時期まで肥効のある緩効性肥料を施用した場合や復元田の場合は、原則として追肥は行いません。しかし、地力が低下し、穂揃期以降に葉色が低下する場では、生育量や葉色を観察し、追肥を検討しましょう。
- 速効性肥料を主体とした肥料を用いている場合は、生育状況（草丈・茎数・葉色）や病害虫の発生状況、天候、ほ場条件などを考慮しながら実施の有無を判断しましょう（表3～7参照）。
- **昨年度は、登熟期の高温の影響や穂揃期以降の葉色が低下し、白未熟粒が発生しました。適切な追肥で、葉色の低下を防ぎましょう。**
- 有機入り化成肥料は通常の化成肥料より肥効が遅く、また有機質肥料の割合が大きいほど肥効の発現が遅くなるので、使用する肥料の特徴を十分理解し、追肥時期を判断しましょう。
- 流し込み追肥用の肥料の活用や、粒状の追肥用肥料を種籾ネットに充填して水口からの流入施肥法（普及に移す技術第98号）などの省力的な施肥法を活用しましょう。

表3 穂肥窒素の施用時期と生産要因への影響

施用時期	生産要因への影響					
	穂数の増加	1穂頭花数の増加	1穂頭花数の減少防止	登熟の良化	下位節間長の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
穂首分化期	出穂前35～30日前	○	○		×	××
幼穂形成期	出穂前25～20日前	○	◎	○		×
減数分裂期	出穂前15～10日前		○	◎	◎	
穂揃期	出穂後～				○	×

◎効果高い、○効果あり、×悪影響あり、××悪影響強い

表4 幼穂形成期及び減数分裂期の葉色の目安

品種名	幼穂形成期(出穂 25 日前)		減数分裂期(出穂 15 日前)	
	カラスケール	葉緑素計値	カラスケール	葉緑素計値
ひとめぼれ	4.2～4.5	37～39	3.9～4.2	35～37
ササニシキ	(4.2～4.5)	(37～39)	3.4～3.7	32～34
まなむすめ	3.9～4.2	35～37	-	-
だて正夢	(4.7～5.0)	40～42	(4.2～4.6)	37～39
金のいぶき	(3.6～3.9)	33～35	(3.1～3.4)	30～32

※()内は参考値及び換算式からの計算値

表5 穂肥の標準的な窒素施用量の目安

品種	窒素施用量	
	出穂前25～20日前(幼穂形成期)	出穂前15～10日前(減数分裂期)
ひとめぼれ 金のいぶき	1.0kg/10a	1.0kg/10a
ササニシキ	-	1.0～1.5kg/10a
まなむすめ つや姫 萌えみのり	2.0kg/10a	-
だて正夢	1.0kg/10a	1.0kg/10a
	幼穂形成期に追肥できない場合	2.0kg/10a

表6 幼穂形成期及び減数分裂期における倒伏指標値

幼穂形成期(草丈×㎡茎数×葉色:10 ⁵)								減数分裂期(草丈×㎡茎数×葉色:10 ⁵)									
茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計(SPAD502型)						倒伏 危険域	茎数 (本/㎡)	草丈 (cm)	葉緑素計(SPAD502型)						倒伏 危険域
		38	40	42	44	46	48				34	36	38	40	42	44	
600	50	11.4	12.0	12.6	13.2	13.8	14.4		550	60	11.2	11.9	12.5	13.2	13.9	14.5	
600	55	12.5	13.2	13.9	14.5	15.2	15.8		550	65	12.2	12.9	13.6	14.3	15.0	15.7	
600	60	13.7	14.4	15.1	15.8	16.6	17.3		550	70	13.1	13.9	14.6	15.4	16.2	16.9	
600	65	14.8	15.6	16.4	17.2	17.9	18.7		550	75	14.0	14.9	15.7	16.5	17.3	18.2	I
600	70	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I	550	80	15.0	15.8	16.7	17.6	18.5	19.4	II
600	75	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II	550	85	15.9	16.8	17.8	18.7	19.6	20.6	II
600	80	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	III	550	90	16.8	17.8	18.8	19.8	20.8	21.8	III
700	50	13.3	14.0	14.7	15.4	16.1	16.8		600	60	12.2	13.0	13.7	14.4	15.1	15.8	
700	55	14.6	15.4	16.2	16.9	17.7	18.5		600	65	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2	
700	60	16.0	16.8	17.6	18.5	19.3	20.2	I	600	70	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5	I
700	65	17.3	18.2	19.1	20.0	20.9	21.8	II	600	75	15.3	16.2	17.1	18.0	18.9	19.8	II
700	70	18.6	19.6	20.6	21.6	22.5	23.5	II	600	80	16.3	17.3	18.2	19.2	20.2	21.1	II
700	75	20.0	21.0	22.1	23.1	24.2	25.2	III	600	85	17.3	18.4	19.4	20.4	21.4	22.4	III
700	80	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	III	600	90	18.4	19.4	20.5	21.6	22.7	23.8	III
800	50	15.2	16.0	16.8	17.6	18.4	19.2	I	650	60	13.3	14.0	14.8	15.6	16.4	17.2	I
800	55	16.7	17.6	18.5	19.4	20.2	21.1	II	650	65	14.4	15.2	16.1	16.9	17.7	18.6	I
800	60	18.2	19.2	20.2	21.1	22.1	23.0	II	650	70	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0	II
800	65	19.8	20.8	21.8	22.9	23.9	25.0	II	650	75	16.6	17.6	18.5	19.5	20.5	21.5	II
800	70	21.3	22.4	23.5	24.6	25.8	26.9	III	650	80	17.7	18.7	19.8	20.8	21.8	22.9	III
800	75	22.8	24.0	25.2	26.4	27.6	28.8	III	650	85	18.8	19.9	21.0	22.1	23.2	24.3	III
800	80	24.3	25.6	26.9	28.2	29.4	30.7	III	650	90	19.9	21.1	22.2	23.4	24.6	25.7	III
900	50	17.1	18.0	18.9	19.8	20.7	21.6	II	700	60	14.3	15.1	16.0	16.8	17.6	18.5	I
900	55	18.8	19.8	20.8	21.8	22.8	23.8	II	700	65	15.5	16.4	17.3	18.2	19.1	20.0	II
900	60	20.5	21.6	22.7	23.8	24.8	25.9	III	700	70	16.7	17.6	18.6	19.6	20.6	21.6	II
900	65	22.2	23.4	24.6	25.7	26.9	28.1	III	700	75	17.9	18.9	20.0	21.0	22.1	23.1	III
900	70	23.9	25.2	26.5	27.7	29.0	30.2	III	700	80	19.0	20.2	21.3	22.4	23.5	24.6	III

倒伏危険域

I 倒伏度2を超える確率5～20%

II 倒伏度2を超える確率20～50%

III 倒伏度2を超える確率50%以上

表7 倒伏危険性とその対策

倒伏危険域	生育状態	対策
倒伏危険域 I 未満	正常	追肥可
倒伏危険域 I	やや過剰	追肥は控える、中干しの強化、場合により倒伏軽減剤散布
倒伏危険域 II	過剰	追肥不可、中干しの強化、飽水管理、倒伏軽減剤散布
倒伏危険域 III	かなり過剰	追肥不可、中干しの強化、飽水管理、倒伏軽減剤散布(使用基準の範囲内で早期)、部分的であれば株の間引きも有効

3 病害虫対策 ～ 葉いもち発生量は「平年並み」～

- ・県内の葉いもち発生量は「平年並み」、発生開始期も平年並みの7月第1半旬(7/1～7/5)と予想されています(6月24日 宮城県病害虫防除所発表)。
 アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM)では、6月23日～24日及び7月1日に、「いもち病感染の好適条件」等が出現しています。水田の見回りをこまめに行い、葉いもちの早期発見に努めましょう。
- ・コバネイナゴの発生量は「やや少ない」で、発生時期(本田侵入盛期)は「平年並」(7月第2半旬:7/6～7/10)です。
- ・斑点米カメムシ類対策として、雑草や牧草の刈取りは早めを実施し、出穂の10日前までには終わらせましょう。病害虫防除所の斑点米カメムシ類のすくい取り調査(水田周辺牧草地他、6/14～18)では、平年よりも少ない状況です。

東北地方 1 か月予報

(7月6日から8月5日までの天候見通し)

令和6年7月4日仙台管区气象台 発表※抜粋

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。平均気温は、高い確率70%です。降水量は東北太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	20	70
【降水量】	東北太平洋側	20	40	20
【日照時間】	東北地方	40	40	20

<気温の階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	10	10	80
2週目	東北地方	10	30	60
3～4週目	東北地方	20	40	40

高温に関する早期天候情報(東北地方)

令和6年7月4日14時30分

仙台管区气象台 発表

東北地方 7月10日頃から かなりの高温

かなりの高温の基準：5日間平均気温平年差 +2.5℃以上

東北地方の向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため高く、かなり高い日が多いでしょう。農作物や家畜の管理等に注意してください。また、熱中症となりやすい状態が続きますので、健康管理に注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には高温に関する気象情報を、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートを発表しますので、こちらにも留意してください。

～ 宮城県農薬危害防止運動実施中！(6月1日から8月31日) ～